

東北心理学会第 66 回大会
新潟心理学会第 49 回大会
合同大会プログラム

TPA66+NPA49

2012 年 7 月 14 日(土)-15 日(日)



新潟大学

五十嵐キャンパス

ごあいさつ

東北心理学会第 66 回大会は、2012 年 7 月 14 日、15 日と新潟大学の五十嵐キャンパスにて、新潟心理学会第 49 回大会との合同大会として開催する運びとなりました。

新潟での開催は 1996 年の 50 回大会以来、16 年ぶりということになります。この間に心理学を取り巻く情勢も少なからず変わってきたようですが、本大会では、新潟大学心理学研究室の伝統に則り、感覚・知覚という心理学の基礎を意識してシンポジウムや講演を企画した次第です。シンポジウムでは、この領域で活躍する若手研究者から興味深い話を聞けることと思います。

研究発表も多くの申込みをいただきました。地方学会という場合は、旧知の間柄にある研究者が一層交流を深めるところであり、また新しい間柄を育てていくところでもあります。老若男女かわからず、発表の場では大いに研鑽しあい、懇親会では研究者としてまた友人として関係を深めていただければ、開催者側としてこの上ございません。

本大会は、会場として大学校舎を使用しますが、今では驚くほどの費用がかかります。しかしながら、心理学関連図書でお世話になっている北大路書房様、ナカニシヤ出版様、また心理学機器でお世話になっている竹井機器工業様より暖かいご支援をいただきました。またシンポジウム開催にあたっては認定心理士会北海道・東北支部様のご協力も得まして、滞りなく皆さんをお迎えすることができます。準備委員会一同感謝申し上げます。

本大会が、実りある場となり、心理学の更なる発展に向けて大いに刺激となることを期待し、新潟の地で皆様とお会いできることを楽しみにお待ちしております。

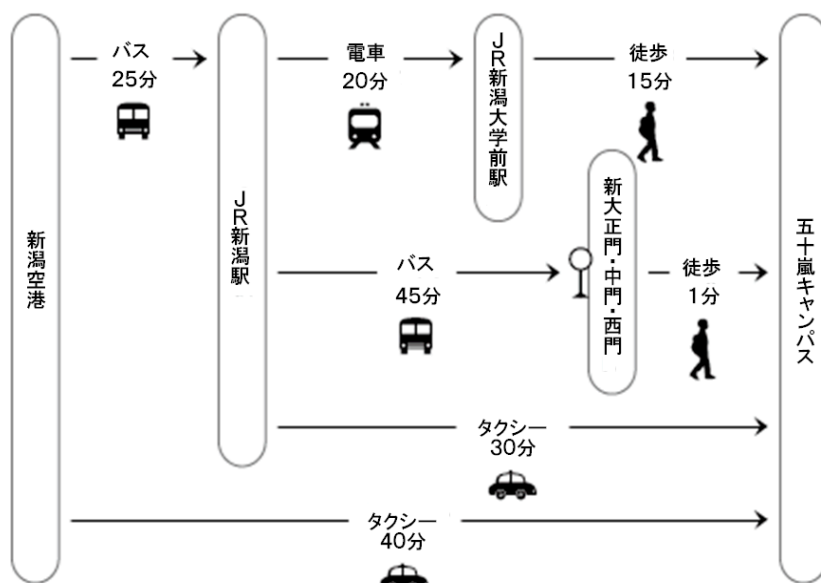
東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会 合同大会
準備委員会 委員長 宮崎 謙一

会場までのご案内

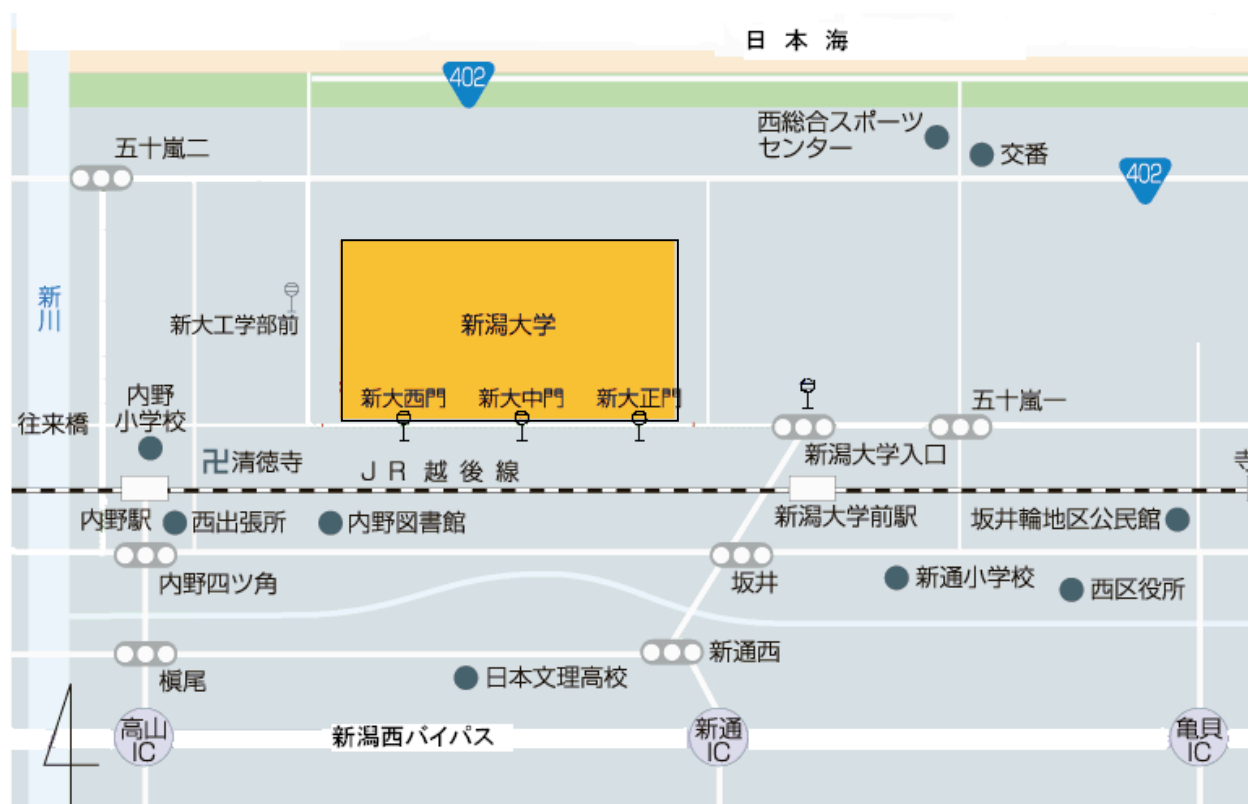
JR 新潟駅から

電車 JR 越後線の内野、吉田、柏崎方面行をご利用下さい。1 時間に 3 本程度です。ホームは列車によって変わります。駅の発車案内でご確認下さい。

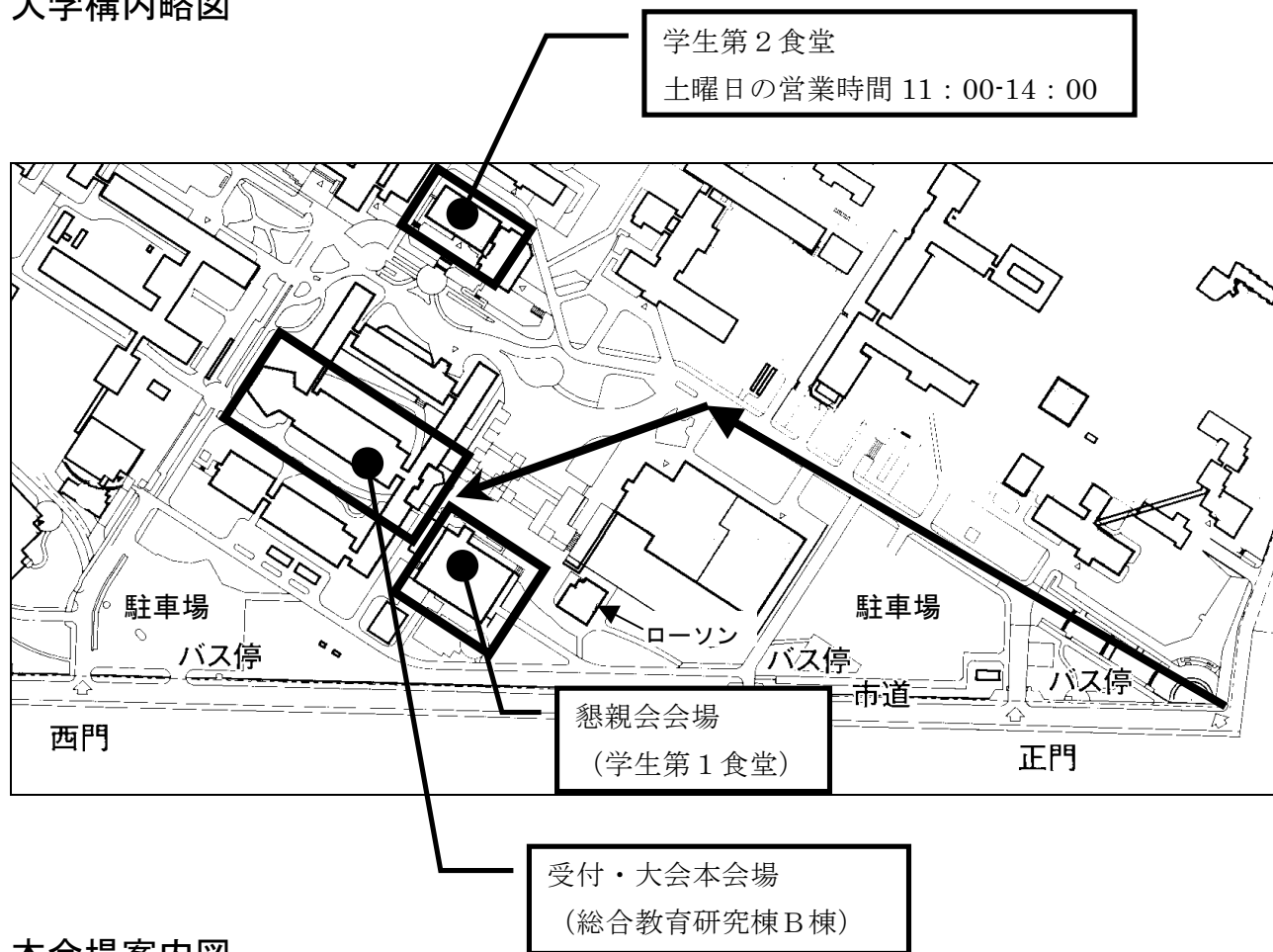
バス JR 新潟駅万代口バスターミナル、7 番乗り場でご乗車下さい。新潟大学行（西小針線）は 1 時間に 2～4 便です。



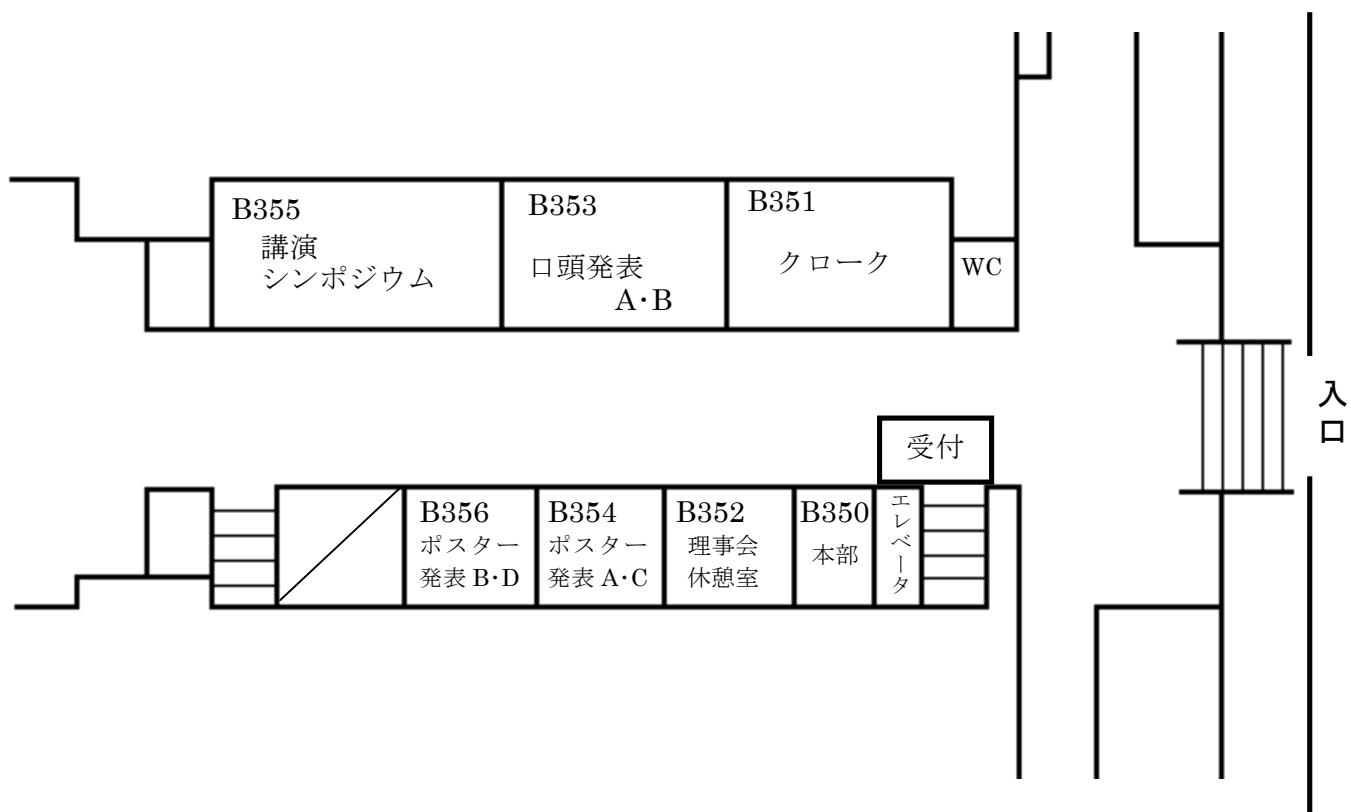
自家用車 自家用車でお越しの方は、正門または西門から構内に入って近くの駐車場（3 頁の図参照）をご利用ください。守衛がいる場合は指示に従ってください。



大学構内略図



本会場案内図



大会参加者へのご案内

大会行事

1. 本大会では、「特別講演」、「大会企画シンポジウム」、「一般研究発表」を行います。「一般研究発表」には、「口頭発表」と「ポスター発表」の2つの形式があります。
2. 「総会」は大会初日（14日）の17時から行われます。正会員の皆様はご出席ください。学会事務局より事業報告等が行われます。
3. 「懇親会」は、大会初日（14日）、五十嵐キャンパス内の学生第1食堂ホールで開催いたします。発表会場に隣接する建物です。学術的な交流の場、新たな出会いの場、旧交を温める場となりますよう、多くの方々のご参加をお待ちしております。
4. 宿泊については、参加者各自でご手配くださいますようお願いいたします。

参加章・受付

1. 大会期間中は、参加章を着用してください。受付にて参加費支払いの際にお受け取り下さい。
2. 受付開始時刻は、初日10時30分、2日目は9時30分です。
3. 受付は、総合教育研究棟入口から階段を上がったロビーにございます。案内掲示に従ってお進み下さい。
4. 大会参加費および懇親会費は以下のとおりです。

大会参加費

正会員……	5,000 円
臨時会員…	5,000 円
当日会員…	3,000 円

懇親会参加費

一般（院生含む）…	5,000 円
学部学生 ………	3,000 円

※臨時会員とは連名発表者となるための会員であり、当日会員とは本大会への参加資格を与えられる非会員の参加者で、研究発表はできません。

5. 大会受付とは別に東北心理学会の事務局受付を設けます。東北心理学会の年度会費については、学会事務局受付にて納入してください。

会場関係

1. 自家用車でお越しの方は、構内の駐車場（3 頁図参照）をご利用下さい。守衛がいる場合には、その指示に従ってください。
2. 会場内での呼び出しは原則としていたしません。伝言板を受付付近に設置します。
3. 基本的に構内禁煙です。喫煙所はローソン付近にあります。
4. クロークは B351 室です。
5. 休憩室は B352 室に設置します。コーヒー、紅茶など備えてあります。
6. 大会開催中の昼食について
 - ・1 日目、14 日(土) 11:00～14:00 まで学生第 2 食堂が営業しております。キャンパス内ローソンも営業しております。
 - ・2 日目、15 日(日) キャンパス内ローソンのみ営業しております。
 - ・五十嵐キャンパス周辺にも喫茶店、レストランがいくつかございます。
7. 大会期間中の連絡は、大会事務局（080-3422-1514）までお願いいたします。緊急の用件のみにご利用下さい。

大会日程

14日

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
3F ロビー		受付										
B351		クローク										
B350		大会本部										
B352			理事会	休憩室								
B353					口頭発表A							
B354					ポスター発表A							
B356					ポスター発表B							
B355								特別講演	総会			
学生第1食堂ホール											懇親会	

15日

3F ロビー	受付				
B351	クローク				
B350	大会本部				
B352	休憩室				
B353	口頭発表B				
B354	ポスター発表C				
B356	ポスター発表D				
B355			シンポジウム		

研究発表者へのご案内

口頭発表

1. 口頭発表会場は B353 室です。
2. 発表時間は、質疑応答を含め 1 人 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）です。10 分経過で 1 鈴、12 分経過で 2 鈴、15 分経過で 3 鈴が鳴ります。3 鈴後は、すみやかに次の発表者と交代してください。
3. 発表者は、自分の発表だけでなく、そのセッションすべてへの出席が求められます。
4. 全体討論の時間は設けませんので、質疑は発表時間の中で行ってください。
5. 発表資料を配布する方は、早めに会場担当スタッフにお渡し下さい。
6. 発表会場には液晶プロジェクターとノート P C をご用意いたします。OS は Windows7、アプリケーションは Microsoft Power Point2010 がインストールされています。パワーポイントのファイルは USB メモリに収めてご持参の上、セッション前にご自身で動作確認をして下さい。
7. Mac など、その他の機器をお使いの場合は、事前に大会準備委員会までお知らせ下さい。
8. 機器の操作や持込機器の設定は、発表者ご自身で行ってください。

ポスター発表

1. ポスター発表会場は B354 室および B356 室です。
2. ポスター発表は、割り当てられたセッション中（2 時間）ポスターを掲示し、大会プログラムで指定された在席責任時間（ポスター番号が奇数の方は前半の 1 時間、偶数の方は後半の 1 時間）のあいだ、質疑に応じることにより正式発表とみなされます。それ以外の時間もできるだけ在席することが望まれます。なお、責任時間中に在席の確認を行います。
3. 発表者はセッション開始 10 分前までに、ポスター発表会場内に設けられた発表受付へお越し下さい。リボンと貼付用品（画鋏）をお渡しいたします。
4. 発表者はセッション開始 5 分前までに発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼ってください。各ポスターの番号は、プログラム中に記載されています。
5. ポスター発表のパネルの大きさは、縦 180cm、横 90cm です。文字の大きさは指定しませんが、2m 程度離れた位置からでも読める大きさを目安にしてください。
6. ポスター発表者が欠席した場合には発表取消とみなします。連名発表の場合、お申し出により連名発表者をポスター発表者に変更することができます。ただし、研究発表者となるのは大会期間中 1 回に限ります。発表者の欠席・交代などの連絡は、会期前は大会準備委員会事務局に、会期中はポスター会場スタッフまでお願いいたします。
7. 資料を配布する方は、必要部数をあらかじめコピーしてご持参下さい。また、配布も各自でお願いいたします。
8. ポスターはセッション終了後まで掲示し、セッション終了後 15 分以内に撤去してください。撤去されなかったポスターは大会事務局で処分いたします。

発表論文原稿

1. 責任発表者は「発表論文原稿」を大会終了時（7月15日15時）までに、東北心理学会事務局 HP（<http://www.sal.tohoku.ac.jp/psychology/tpa/>）からアクセスできる「電子投稿システム」により投稿してください。電子投稿の詳細については、上記の学会 HP でご確認下さい。
2. 特別講演、大会企画シンポジウムで発表される方も、忘れずに原稿をご投稿下さい。

第66回大会に関するお問い合わせ先

東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会 合同大会準備委員会事務局
〒950-2181 新潟市西区五十嵐の町 8050 新潟大学人文学部心理学研究室内
Tel/Fax 025-262-7921（担当：福島）
ウェブサイト：<http://www.human.niigata-u.ac.jp/~psy/tpa2012/>
E-mail: tpa66@human.niigata-u.ac.jp

特別講演

7月14日(土) 15:30 – 17:00

会場 B355

絶対音感研究の現在

講演者 宮崎 謙一（新潟大学）

司 会 仁平 義明（白鷗大学）

協賛 日本認定心理士会関東甲信越支部

概 要

絶対音感ということばは広く知られているが、その意味が正しく理解されているとは言えず、誤解も多い。ここでは絶対音感とは何かを明確にした上で、絶対音感を持つ人々がどのように音楽を聞いているのか、それがどのように獲得されるのか、遺伝は関係するのかなど、絶対音感をめぐるいくつかの問題について、私がこれまで行ってきた実験的研究を中心に紹介する。また絶対音感はいわゆるまれな能力と見なされることが多いが、信頼できる調査が行われたことはなく、絶対音感がどのくらいまれなのかは明らかではない。ところが私が蓄積してきたデータによると、日本では早期に音楽訓練を開始した人々の中では絶対音感保有者の割合がこれまで考えられてきたよりもずっと多いことがわかった。現在、絶対音感に加えて、音楽家にとって不可欠な能力である相対音感に関して、日本と中国、ポーランドの音楽専攻学生を対象とする国際比較研究を進めており、現在まで得られた結果の一部を紹介する。さらに、絶対音感とは音楽家にとって不可欠なものとする見方があるが、これは一種の相関の錯覚であり、絶対音感と音楽能力の間には因果的関連はない。むしろ絶対音感とは音楽活動にとって好ましくない方向に働くことがあることを指摘する。

主要論文

- Miyazaki, K. Absolute Pitch: Perceptual/Cognitive, Developmental, and Musical Perspectives. In Yi Suk Won (Ed.), *Music Perception and Cognition*. Seoul National University Press (in press).
- 宮崎謙一 絶対音感. 岩田 誠, 河村 満 (編), 脳とアート: 感覚と表現の脳科学. 医学書院 (印刷中).
- Miyazaki, K. Absolute pitch and its implications for music. *Archives of Acoustics*, 32(3), 3-14 (2007).
- Rakowski, A. and Miyazaki, K. Absolute pitch: Common traits in music and language. *Archives of Acoustics*, 31(1), 5-16 (2007).
- Miyazaki, K. Learning absolute pitch by children: A cross-sectional study. *Music Perception*, 24(1), 63-78 (2006).
- Itoh, K., Suwazono, S., Arao, H., Miyazaki, K., and Nakada, T. Electrophysiological correlates of absolute pitch and relative pitch. *Cerebral Cortex*, 15, 760-769 (2005).
- Miyazaki, K. Recognition of transposed melodies by absolute-pitch possessors. *Japanese Psychological Research*, 46, 270-282 (2004).
- Miyazaki, K. How well do we understand absolute pitch? *Acoustical Science & Technology*, 25, 426-432 (2004).
- Miyazaki, K. & Rakowski, A. Recognition of notated melodies by possessors and non-possessors of absolute-pitch. *Perception & Psychophysics*, 64, 1337-1345 (2002).
- Miyazaki, K. Perception of relative pitch with different references: Some absolute-pitch listeners can't tell musical interval names. *Perception & Psychophysics*, 57, 962-970 (1995).

※この講演は日本認定心理士会関東甲信越支部研修会を兼ねて実施されます。

大会企画シンポジウム

7月15日(日) 13:00 - 15:00

会場 B355

食を豊かにする多感覚知覚

企画 行場次朗（東北大学） 宮崎謙一（新潟大学）

司会 行場次朗（東北大学）

協賛 日本認定心理士会北海道・東北支部

「食」は最も基本的な生命維持活動の一つであるが、特に人間にとっては、そのような基本的意義を越えて、実に多彩で重要な意味をもつ。例えば、その人がどれだけ豊かな生活をおくっているかを示す指標に **Quality of Life** があるが、その多くの部分は食の豊かさ **Quality of Eat** に依存していると考えられることもできる。本シンポジウムでは、食を彩る多感覚の働きに注目し、この分野で最先端の研究を行っている気鋭の3人の研究者をお招きして、話題提供をしていただく。

話題提供1 「食における質感視知覚とその発達」

講演者：和田有史（農業・食品産業技術総合研究機構）

概要：人間は食品をどのように味わうのだろうか？と問われると、“味覚・嗅覚を使って”、と答える方が多い。しかし、人間は口に物を入れる以前に、既に“それを口に入れるかどうか”という重要な決断を行っている。これには視・聴・触などの多感覚からの情報に加え、社会心理学的な文脈なども絡み合う。このように“食”という人間の生活の根本の中に、個々の感覚の分析をこえた心理学的な検討課題がつまっている。このトークでは、本研究室で行なっている食における質感視知覚やステレオタイプなどの認識とその発達に関する話題を中心に、食の心理学の広がりを紹介したい。

話題提供2 「風味知覚形成のメカニズム」

講演者：坂井信之（東北大学）

概要：我々が食物を摂取した際に生じる「味」は、味覚とは異なり、嗅覚や体性感覚などの情報が収斂して生じる多感覚知覚である。ところが、「味」＝味覚という思い込みは非常に強く、例えば嗅覚の障害によって生じた「味」の障害を味覚の障害だと訴える患者が適切な治療を受けられないという事態を生じさせる例も多い。このトークでは、なぜ風味知覚がそれほどまでに堅固で、分別できないのか、動物実験やヒトを対象とした生理計測などの知見から説明を試みる。

話題提供3 「食における味覚と嗅覚の相互作用とその時間特性」

講演者：小早川達（産業技術総合研究所）

概要：「和菓子は五感の芸術」と言葉に表されるように、私たちは五感をフルに活用して「食」という行為に挑んでいる。そのなかで私達が「味」として認知されているものの正体はなんだろうか。「味」とは味覚だけでなく、嗅覚も大きな役割をはたし、またその相互作用においては時間も重要な要素である我々は考えている。本シンポジウムでは味覚・嗅覚の単独もしくは相互作用を時間の観点から心理学、脳機能の観点から探っていきたい。

全体討論

※なお、このシンポジウムは日本認定心理士会北海道・東北支部の協賛で開催され、同支部第28回研修会を兼ねて行われます。

口頭発表 A (1 日目)

7 月 14 日(土) 13:00-14:15

会場 B353

座長 吉田 信彌

0A-01 13:00 13:15	適応指導教室サポーターの「まなざし」と 職業的発達	豊嶋 秋彦	弘前大学教育学部
0A-02 13:15 13:30	高校における盗難被害の研究 - 盗難品の 非個性性 -	吉田 信彌	東北学院大学教養学部
0A-03 13:30 13:45	韓国における東日本大震災の評価	Wiwattanapantuwong, Juthatip 張 燕 本多 明生 阿部 恒之	東北大学大学院文学研 究科 東北大学大学院文学研 究科 東北福祉大学総合福祉 学部 東北大学大学院文学研 究科
0A-04 13:45 14:00	流木療法の可能性その 2 事例研究	高山 達雄	
0A-05 14:00 14:15	抑うつと怒りの関連	三橋 識子 田上 恭子	弘前大学大学院教育学 研究科 弘前大学教育学部

口頭発表B（2日目）

7月15日(日) 10:00－11:15

会場 B353

座長 佐々木 宏之

0B-01 10:00 10:15	学童保育における音読支援を活用した教育プログラムの評価	作山 美智子 松井 匡治 庄子 弘子	東北文化学園大学 東北文化学園大学 東北文化学園大学
0B-02 10:15 10:30	東アジアにおける美容整形の意識の比較	張 燕	東北大学文学部
0B-03 10:30 10:45	表情選択反応における好ましさの影響	中俣 友子 阿部 恒之	東北大学大学院文学研究科 東北大学大学院文学研究科
0B-04 10:45 11:00	健常大学生における自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量の個人差	高橋 純一 行場 次朗 山脇 望美	東北大学大学院文学研究科 /日本学術振興会 東北大学大学院文学研究科 東北大学大学院文学研究科
0B-05 11:00 11:15	大域・局所処理の個人差に関する予備的検討	佐々木 宏之 大橋 智樹	新潟中央短期大学 宮城学院女子大学

ポスター発表 A (1 日目)

会場 B354

ポスター掲示時間 7 月 14 日(土) 13:00-15:00

在席責任時間 奇数番号 13:00-14:00 偶数番号 14:00-15:00

PA-01	香水が人物の印象形成に及ぼす影響	神田 光荣 坂井 信之	東北大学大学院文学研究科 東北大学大学院文学研究科
PA-02	感情認知の先行条件としての社会的相互作用ゲームにおける方略と関係性 (1)	中野 良樹 森田 紗也子	秋田大学教育文化学部 秋田大学教育学研究科
PA-03	感情認知の先行条件としての社会的相互作用ゲームにおける方略と関係性(2)	森田 紗也子 中野 良樹	秋田大学教育学研究科 秋田大学教育文化学部
PA-04	課題習熟度と社会的比較が社会的促進に与える影響	夏堀 百合奈	東北大学大学院文学研究科
PA-05	努力の可視性が報酬分配におよぼす効果	福野 光輝	山形大学人文学部
PA-06	多元的公正感が抗議行動の実施に与える影響	川嶋 伸佳	東北大学
PA-07	不確かな神経科学的情報の獲得に関する調査	八田 武俊 八田 純子	岐阜医療科学大学
PA-08	リクルートファッションが女子大生の人物評価に与える影響について	山本 和佳奈	宮城学院女子大学

PA-09	嬉しい嘘を見抜けるか	小形 佳祐 福野 光輝	東北大学大学院文学研究科 山形大学人文学部
PA-10	青年期女子における親子関係 ―自尊感情・精神的自立との関連について―	増井 文佳	東北大学教育学研究科
PA-11	青年期における親との葛藤と精神的健康の関連性について(1)―葛藤解決に対する自己効力感尺度作成を中心に―	今野 舞	宮城学院女子大学学生相談室
PA-12	現代的差別に関する社会心理学的研究：喫煙者に対するステレオタイプと差別	山本 雄大 佐藤 潤美	東北大学 東北大学
PA-13	共感性と基本的信頼感との関連性	佐藤 記透 豊島 秋彦	弘前大学大学院教育学研究科 弘前大学教育学部
PA-14	過敏型・無関心型自己愛と内向・外向攻撃性との関連	蛭田 陽子 田名場 忍	弘前大学大学院教育学研究科 弘前大学教育学部
PA-15	援助要請の意思決定と実行の差の検討 ―視点取得の観点から―	竹ヶ原 靖子 安保 英勇	東北大学大学院教育学研究科 東北大学大学院教育学研究科
PA-16	夫婦間葛藤に対する対処方略への意味づけが夫婦関係満足度に及ぼす影響	上田 美千子 北島 正人	秋田大学大学院教育学研究科 秋田大学教育文化学部
PA-17	親子関係の質が相手への行動期待と葛藤の激しさの知覚との関連に及ぼす影響	小嶋 かおり	新潟青陵大学短期大学部

ポスター発表 B (1 日目)

会場 B356

ポスター掲示時間 7 月 14 日(土) 13:00-15:00

在席責任時間 奇数番号 13:00-14:00 偶数番号 14:00-15:00

PB-01	聴覚刺激のピッチ変化が引き起こす視覚運動軌道錯覚	竹島 康博 行場 次朗	東北大学大学院文学研究科 東北大学大学院文学研究科
PB-02	心的負荷条件下における自己欺瞞と対処方略の適応効果	池田 和浩	尚絅学院大学
PB-03	表情の認知における顔部品の影響	真覚 健	宮城大学看護学部
PB-04	おいしさの記憶 一食の記憶が持つ特質についてー	加藤 健二 大竹 恵子	東北学院大学教養学部 関西学院大学文学部
PB-05	日常における音楽の不随意的想起	鈴木 郁生 八戸 健	青森公立大学 青森スバル自動車
PB-06	色 字 共 感 覚 (Grapheme-Color Synesthesia) の認知特性-検出テストの開発と創造的特性の検討-	齋藤 愛雅 松岡 和生	東北大学大学院文学研究科 岩手大学人文社会科学部
PB-07	大学生の就職活動ストレスと自己受容、他者からの受容の関連	加藤 純子 高田 知恵子	秋田大学大学院教育学研究科 秋田大学大学院教育学研究科
PB-08	大学生の主観的逸脱行動と学校適応感との関連	濱谷 紗希 林 美都子	秋田大学大学院 北海道教育大学
PB-09	小児外科疾患児・者とその保護者の精神的健康についてー胆道閉鎖症を対象にー	星 恵美 上埜 高志	東北大学大学院教育学研究科 東北大学大学院教育学研究科

PB-10	風景構成法における枠づけ・彩色の効果の質的研究	小川 文	信州大学大学院教育学研究科
PB-11	ソリューション・フォーカスト・ブリーフ・セラピーを経験した不登校サバイバー学校復帰プロセスの TEM による検討	鈴木 俊太郎 島田 英昭 村上 千恵子	信州大学教育学部附属教育実践総合センター 信州大学教育学部 信州大学教育学部
PB-12	青年期における摂食障害傾向とやせ志向文化および被影響性との関連について	福島 彩	東北大学大学院教育学研究科
PB-13	老年内科音楽療法セッションにおける認知症の高齢者をめぐるコミュニケーションー参与観察によるフィールドノーツの質的分析からー	加藤 奈緒子	名古屋大学医学部附属病院 老年内科
PB-14	大学院生の職業的専門性の獲得に向けてー心理臨床ケースカンファレンスの意義づけを中心にしてー	西澤 望 花屋 道子	弘前大学大学院教育学研究科 弘前大学教育学部
PB-15	大学生の死後観に関する一考察ー他者の死と自己の死との違いを中心にー	田上 恭子 山中 亮	弘前大学教育学部 北海学園大学経営学部
PB-16	過剰適応傾向と精神的健康および主張性の関連	鈴木 美香 宮野 素子	秋田大学教育学研究科 秋田大学
PB-17	心理的エンパワーメントに関する一考察ー対話直後のインタビュー調査内容を中心にー	内海 裕子 花屋 道子	弘前大学大学院教育学研究科 弘前大学教育学部

ポスター発表 C (2 日目)

会場 B354

ポスター掲示時間 7 月 15 日(日)10:00-12:00

在席責任時間 奇数番号 10:00-11:00 偶数番号 11:00-12:00

PC-01	保育における子どもの状況把握力を高めるための教員自己評価法について	佐々木 典彰 森 和彦 島内 智秋	東北女子短期大学 秋田大学教育文化学部 東北女子短期大学
PC-02	教師の児童認知に関する研究(13)	伊藤 忠之	青森市立東陽小学校
PC-03	中学生のコミュニケーション・スキルが教室にいるときの気分に与える影響	岩渕 将士	東北大学大学院教育学研究科
PC-04	大学生における精神保健の知識と理解に関する調査—統合失調症とうつ病のビネットを用いて—	工藤 古都美	東北大学
PC-05	大学生における共感性と両親に対する態度・行動の関連 —心理的離乳の概念を踏まえて—	畠山 祥史	東北大学教育学研究科
PC-06	教師が感じる発達障害児にとっての「うれしい活動・楽しい活動」	鶴巻 正子 仁平 義明 佐藤 拓	福島大学 白鷗大学 いわき明星大学
PC-07	学生の養護性と対児感情について—看護学生・児童教育専攻生の比較—	星 静香	東北大学大学院教育学研究科
PC-08	発達期待と親の成長が育児感情に与える影響—相互独立性と相互協調性の影響—	峯岸 由貴	北部発達相談支援センター

PC-09	対面討議形式の協同学習による散文理解	光田 基郎	ノースアジア大学
PC-10	夫婦 coparenting における maternal gatekeeping の意味—概念整理のために—	加藤 道代 黒澤 泰	東北大学大学院教育学研究科 東北大学大学院教育学研究科
PC-11	地域交通教育の進展と残された課題—交通心理学的考察—	長塚 康弘	新潟心理学研究所
PC-12	被災地におけるリラクセーション研修の実施について—携帯型バイオフィードバック機器を用いて—	山口 浩 佐々木 誠 織田 信男 佐藤 正恵	岩手大学人文社会科学部 岩手大学三陸復興支援機構 岩手大学人文社会科学部 岩手大学人文社会科学部
PC-13	災害時の心のケアに対する一般のイメージ（3）	佐藤 由香理 大橋 智樹	仙台市太白区役所 宮城学院女子大学
PC-14	震災における外国人のストレスと対処（2）—対象者の社会的特性・状況とストレスの関連—	フ ォ ス テ ル マルガリタ 平田 忠	八戸大学 仙台大学
PC-15	東日本大震災が大学生の生活観・人生観に与えた影響(2)	大橋 智樹 木野 和代 松浦 光和	宮城学院女子大学 宮城学院女子大学 宮城学院女子大学
PC-16	東日本大震災直後の学生の気分変化	金地 美知彦 フォステル・マルガリタ 畑山 俊輝	八戸大学人間健康学部 八戸大学人間健康学部 八戸大学

ポスター発表 D (2 日目)

会場 B356

ポスター掲示時間 7 月 15 日(日)10:00-12:00

在席責任時間 奇数番号 10:00-11:00 偶数番号 11:00-12:00

PD-01	SCMS (自己統制と管理のコーピング尺度) 日本語版の作成と妥当性	徳吉 陽河 岩崎 祥一	東北大学大学院情報科学研究科 東北大学大学院情報科学研究科
PD-02	シナリオを用いた自己統制の測定 — Piquero and Bouffard(2007)を基盤として—	中川 知宏 林 洋一郎	近畿大学総合社会学部 法政大学キャリアデザイン学部
PD-03	「卑屈さ」についての尺度作成の試み	鹿内 美冴 友野 隆成	宮城学院女子大学人文科学研究科 宮城学院女子大学学芸学部
PD-04	大学生の自己意識が怒りの経験に与える 影響	鈴木 啓子 堀毛 裕子 加藤 健二 小林 裕	東北学院大学大学院人間情報学研究科 東北学院大学 東北学院大学 東北学院大学
PD-05	日本に永住する外国人女性の適応過程— PAC 分析による検討—	一條 玲香 上埜 高志	東北大学大学院教育学研究科 東北大学大学院教育学研究科
PD-06	完全主義の類型と自己嫌悪感の関連	西村 玲	東北大学大学院文学研究科
PD-07	曖昧さに対するパーソナリティ特性と抑 うつの関連性	友野 隆成 鹿内 美冴	宮城学院女子大学学芸学部 宮城学院女子大学人文科学研究科
PD-08	レジリエンスおよび自己・他者に対する 認知が精神的健康に及ぼす影響について —日常生活ストレスに着目して—	石井 優	東北大学大学院教育学研究科

PD-09	青年期の自己愛傾向と抑うつに関連について—対人関係における親和動機に着目して—	黒河 歩美	東北大学大学院教育学研究科
PD-10	運動習慣と抑うつ水準および攻撃性に関連	大川 敦史 清水 貴裕	秋田大学教育学研究科 秋田大学教育文化学部
PD-11	対人不安傾向にある大学生のパーソナル・スペースへの意識 — 相手との関係性に着目して —	佐川 利沙 高田 知恵子	秋田大学教育学研究科 秋田大学教育文化学部
PD-12	Thought Control Ability Questionnaire 日本語版の開発	佐藤 拓 荒木 剛 池田 和浩 菊地 史倫 仁平 義明	いわき明星大学人文学部 東北大学加齢医学研究所 尚絅学院大学 公益財団法人鉄道総合技術研究所 白鷗大学教育学部
PD-13	スピーチ不安に関する一検討—話者の非親和的行動に着目して—	木村 友衣子	弘前大学大学院教育学研究科
PD-14	成人愛着スタイルと摂食態度、ボディ・イメージの関連性	馬場 琴絵	弘前大学大学院教育学研究科
PD-15	中高年者レジリエンス尺度の構成	杉山 紗衣香 柴田 健	秋田大学大学院教育学研究科 秋田大学教育文化学部
PD-16	大学生の愛着スタイルとソーシャルスキルとの関連	玉木 宏樹 高橋 純一	福島大学 東北大学大学院文学研究科/日本学術振興会
PD-17	甘えと相互協調的自己観との関連	清水 祐子	宮城学院女子大学大学院人文科学研究科

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

http://www.kitaohji.com

振替 01050-4-2083

▶価格は定価(税込み)で表示しています

仮想的有能感の心理学

—他人を見下す若者を検証する— 速水敏彦編著 A5・244頁・2940円 他人を見下すことで自身の有能さを保持する「仮想的有能感」。その概念定義と測定、隣接概念との比較、仮想的有能感を持つ人の個人的特徴、その背景要因、文化差、問題行動との因果性についての実証研究を紹介。

自己意識的感情の心理学

有光興記・菊池章夫編著 A5・318頁・3885円 自己意識的感情研究の本邦初の本格的な研究書。単に自己意識に絡む感情という定義にとどまらない高次の諸感情の分析を精緻な理論構成で提供する。進化的・文化的基盤を念頭に、心理学の各領域での研究動向を加え、今後の研究の方向性も示す。

自己調整学習

—理論と実践の新たな展開へ— 自己調整学習研究会編 A5・344頁・3780円 これまでの欧米中心の研究知見の単なる紹介ではなく、日本人研究者の視点で、理論と実践の両面から自己調整学習研究の現在を包括的・体系的に捉え直すとともに、今後の研究の課題や方向性を展望する。

心の科学のための心身問題物語

—デカルトから認知科学まで— 岡田岳人著 四六・276頁・2415円 哲学史上最大の難問のひとつ「心身問題」について、デカルト、スピノザ、ライブニッツ等々から20世紀後半の認知科学の立役者チャーマーズまで、登場人物の交流や時代を背景にその歴史を描く伝記風・歴史物語。

ユーモア心理学ハンドブック

R. A. マーティン著 野村亮太・雨宮俊彦・丸野俊一監訳 A5上製・520頁・6090円 生理・進化・認知・言語・人格・発達・社会関係・健康など、心理学のほぼ全分野の研究を科学的エビデンスに基づきクリティカルに検討し、体系的に整理。教育や医療の現場でユーモアに関わる実践家にも有用な内容となっている。

シリーズ21世紀の葛藤と紛争の社会心理学

—対立を生きる人間のこころと行動— 高木 修監修 大淵憲一編集 B5・160頁・2940円 対人・組織内葛藤、社会的公正、交渉など、紛争とその解決に関する社会心理学的な知見を紹介。心理学の知見を紛争解決という枠組みで再体系化し、政治学・法学・経済学・人類学などのより応用的な研究領域にも発信。

現代の認知心理学5 発達と学習

日本認知心理学会監修 市川伸一編 A5・360頁・3780円 実証的知見を踏まえつつ、学校での教科の学習を中心に教育的介入を意図した実践的研究の紹介に力点を置く。メタ認知や学習観の形成、文章理解、数学的問題解決、科学的概念の獲得など、具体的な教育実践に多大な示唆を与える。

心理学実験研究レポートの書き方

—学生のための初歩から卒論まで— B. フィンドライ著 細江達郎・細越久美子訳 A5・126頁・1365円 大学生レベルの心理学実験レポートを書くためのガイドライン。APAや日本心理学会の最新のPublication Manualに合わせて、大幅に改訂！ 巻末にはレポート見本例もありわかりやすい。

認知心理学研究の現在を一望！ 現代の認知心理学 (全7巻)

日本認知心理学会 監修

第1巻 知覚と感性 三浦佳世 編

第2巻 記憶と日常 太田信夫・巖倉行雄 編

第3巻 思考と言語 楠見 孝 編

第4巻 注意と安全 原田悦子・篠原一光 編

第5巻 発達と学習 市川伸一 編

第6巻 社会と感情 村田光二 編

第7巻 認知の個人差 箱田裕司 編

●各巻A5判・約350ページ・3,780円

パーソナリティ心理学概論

鈴木公啓 編 ◎性格理解への扉

歴史、概念、遺伝や病理、測定法など、科学の視点が楽しく身につく性格心理学の正統派テキスト。25520円

認知心理学の新展開

川崎恵理子 編著 ◎言語と記憶

言語と記憶についての先端研究の成果を、認知心理学の観点から解説する貴重な試み。28335円

感情的動機づけ理論の展開

速水敏彦 著 ◎やる気の素顔

第一人者による動機づけ理論の新展開！1890円

コンピテンス

速水敏彦 監修 陳 惠貞・浦上昌則・高村和代・中谷素之 編

◎個人の発達とよりよい社会形成のために多彩な論文集。2940円

発達心理学

福本 俊・西村純一 編

各論から歴史・研究法・発達理論、総論まで。学生が主体的に学べる、講義で生かせるテキスト。2100円

保育の心理学

相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子 著 ◎子どもたちの輝く未来のために

保育士や幼稚園教諭の養成課程に必携のテキスト。1890円

発達と臨床の心理学

渡辺弥生・榎本淳子 編

発達段階ごとに特徴的な事例を取り上げ、発達の課題と臨床的にかかわりを実践的に解説する。2100円

幸福を目指す対人社会心理学

大坊郁夫 編 ◎対人コミュニケーションと対人関係の科学

皆が幸せな社会へ！3150円

暮らしの中の社会心理学

安藤香織・杉浦淳吉 編著

身近なトピックから基礎を解説し、体験的に楽しく学ぶ。2310円

社会心理学のストーリー

田島 司 著 ◎無人島から現代社会まで

4コマ漫画を取り入れ楽しく着実に学ぶ、社会心理学入門。1680円

図表で学ぶ心理テスト

長尾博 著 ◎アセスメントと研究のために

歴史や倫理、心得等から、発達や適応を捉える様々な心理テストを図表を多用して平易に解説。2100円

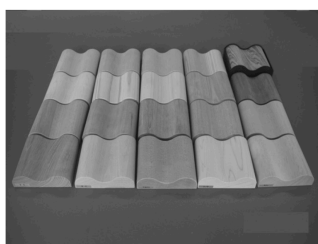
自分で作る調査マニキュアル

北折充隆 著

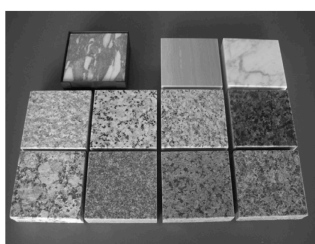
◎書き込み式卒論質問紙調査解説 質問紙と統計調査。2520円

質感サンプルセット

さまざまな質感、素材によるサンプルセットです。
形状による質感認知の影響を調べるができるように、各素材ごとに平板状と波形状の2種類が用意されています。



木材



石材



収納ケース

- 金属カテゴリー
- 樹脂カテゴリー
- 木材カテゴリー
- 石材カテゴリー
- 硝子カテゴリー
- 皮革カテゴリー
- 布カテゴリー

材質：鉄、アルミ、ステンレス めっき違い20種
材質：アクリル 色違い20種
樹脂違い20種
石種 仕上げ違い11種
表面加工および色違い20種
革種、色違い20種
生地、色違い20種

東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会 合同大会

協賛団体ご芳名

株式会社 北大路書房

株式会社 ナカニシヤ出版

竹井機器工業 株式会社

日本認定心理士会 北海道・東北支部

日本認定心理士会 関東甲信越支部

社団法人 日本心理学会

東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会

準備委員会

委員長	宮崎 謙一（新潟大学人文学部）
	長塚 康弘（新潟心理学的研究所）
	黒田 喜久二（長岡晴陵リハビリテーション学院）
	本間 恵美子（新潟青陵大学）
	碓井 真史（新潟青陵大学）
	吉野 美穂子（国立病院機構西新潟中央病院）
	工藤 信雄（新潟大学人文学部）
	相場 恵美子（新潟大学脳研究所脳神経外科言語室）
	佐々木 宏之（新潟中央短期大学）
	白井 述（新潟大学人文学部）
事務局	鈴木 光太郎（新潟大学人文学部）
事務局	福島 治（新潟大学人文学部）

東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会 合同大会 プログラム

発行日 平成 24 年 6 月 1 日

発行者 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会

準備委員会 委員長 宮崎謙一

〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050

新潟大学人文学部心理学的研究室

東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会準備委員会事務局